

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 愛媛県松山市持田町3丁目8-15 |
| 訪問調査日 | 平成29年11月16日 |

【アンケート協力数】※評価機関記入

| | | |
|------------|-----------|-----------|
| 家族アンケート | (回答数) 14名 | (依頼数) 18名 |
| 地域アンケート回答数 | 8名 | |

※事業所記入

| | |
|----------|-------------|
| 事業所番号 | 3873500650 |
| 事業所名 | グループホーム浜っ子 |
| (ユニット名) | ひだまり |
| 記入者(管理者) | |
| 氏名 | 西内 美知子 |
| 自己評価作成日 | 平成29年10月20日 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>【事業所理念】 あなたに笑顔で (自分がされていやなことはしない) あなたの笑顔を (自信をもってもらう) あなたと笑顔で (その人らしい人生が送れるよう)</p> | <p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ●運営推進会議では、ホーム便りを回覧して利用者様の様子を伝えたり、案内を頂いた行事に参加することで議題の事柄に関心のあるものにした結果、意見交換が活発になった。開催日の日時は、ご意見を伺ったが、従来通りがよいとのことだった。 ●看取りに関しては、終了した時の振り返りが充分に出来てないように思われる。 次回への問題点として改善に取り組み、看取りに関しての研修を行う。</p> | <p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者が交代したばかりなこともあり、職員が一丸となって取り組んでいる様子が感じられた。職員全員の対応がとても礼儀正しく丁寧で、常に穏やかである。新人職員も先輩職員に習って、利用者により優しく接している様子が窺えるなど、利用者本位のケアが実践できるよう職員皆で取り組んでいる。</p> |
|---|---|---|

評価結果表

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------------------------|--|-----|--|------|---|------|------|------|---|
| I. その人らしい暮らしを支える | | | | | | | | | |
| (1) ケアマネジメント | | | | | | | | | |
| 1 | 思いや暮らし方の希望、意向の把握 | a | 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | ○ | 入居時に家族さんから聞き取り、入居後は日常生活の会話の中で知り得た情報は「私の大切なことメモ」に記入している | ○ | / | ○ | 「私の大切にしたいことメモ」を活用しながら、職員が利用者から聞き取った情報を手書きで追記し、更新時に介護支援専門員が入力している。「私の大切にしたいことメモ」には、利用者の希望や嬉しいこと、苦しみ、不安なこと、何と呼んでほしいかなどを記入するようになっており、わかりやすくまとめられている。 |
| | | b | 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。 | ○ | 困難な方には、返答しやすい内容を提案し選択してもらうようにしたり、家族さんに聞いている | / | / | / | |
| | | c | 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。 | △ | 家族さんが来られた時に聞く様努めているが、限られた家族さんになっていると思う | / | / | / | |
| | | d | 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。 | ○ | 本人さんとの会話、利用者さん同士の会話の中で気づいたことは「私の大切なことメモ」に記入し職員間で共有している | / | / | / | |
| | | e | 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。 | ○ | 利用者さんの思いを見落とさない様にしているが時として職員の意向が強い時がある | / | / | / | |
| 2 | これまでの暮らしや現状の把握 | a | 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。 | ○ | 入居時に家族さんからの聞き取りや入居前の施設などの資料で既往歴、生活歴の個人情報資料を作り共有している | / | / | ○ | 利用者毎の担当職員が中心となり、家族等から得た入居前の情報をもとに個人情報資料をつくり職員間で共有し、日々の支援の中で少しずつアセスメントを深めている。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。 | ○ | 入居時に作成している個人情報資料や、日常生活の中で見極め職員間で話し合っている | / | / | / | |
| | | c | 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。 | ○ | 日常の様子や会話の中で見極め気づいたことは、申し送りや介護記録に記入し職員間で話し合っている | / | / | / | |
| | | d | 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等) | ○ | 職員全員が日常の様子を観察し要因について話し合い検討している | / | / | / | |
| | | e | 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。 | ○ | ひとり一人に沿った声かけ、誘導をし利用者さんの思いに沿って過ごして頂いているが生活の流れとしては一様になっている所もあると思う | / | / | / | |
| 3 | チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む) | a | 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。 | ○ | 利用者さん本人との会話の中で聞き取りをし職員間で話し合っている | / | / | ○ | 利用者との会話などから聞き取った情報について担当職員が中心となってアセスメントを行い、職員間で情報を共有し記録している。課題整理シートを用いてアセスメント分析を行い、できていなければどうすればできるようになるのかを考慮し、介護計画作成につなげている。 |
| | | b | 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。 | ○ | 職員一人一人が利用者さんの日常生活を観察し職員間で話し合い検討している | / | / | / | |
| | | c | 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。 | ○ | ケアプランに支援内容として反映し、更新時に検討し課題を明らかにしている | / | / | / | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|--------------------------|-----|--|------|--|------|------|------|---|
| 4 | チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画 | a | 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。 | ○ | 入居時の家族さんからの聞き取りや日々の会話から、利用者さんの意向に沿う内容にしている | / | / | / | カンファレンスで職員から出された意見をもとに、介護支援専門員と担当職員が相談しながら介護計画を作成している。利用者に変化が見られた場合には家族に相談しており、主治医からアドバイスを受けることもある。 |
| | | b | 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。 | ○ | 利用者さんに変化があった場合は、職員間で話し合いをしている。主治医からアドバイスをうけたり家族さんに相談している | ○ | / | ○ | |
| | | c | 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。 | ○ | 施設内の行事、地域の行事(地方祭)などに参加できる様にしている | / | / | / | |
| | | d | 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。 | ○ | 病院の受診は家族さんをお願いしている | / | / | / | |
| 5 | 介護計画に基づいた日々の支援 | a | 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。 | ○ | 介護記録の中に利用者さんの目標、援助内容が記載されたモニタリングシートを入れて共有している | / | / | ○ | 職員が記録していく日々の記録用紙の他に介護支援専門員用記録が別になり、双方をまとめる形でモニタリングし、支援内容に変更がある場合はカンファレンスを行うことで介護計画作成につなげている。利用者の様子については介護記録に具体的に記入し、重要事項は介護日誌の申し送りにも記入している。職員が自身のアイデアなどを実施した際にも、介護日誌の申し送りに記入し職員間で共有し意見交換している。 |
| | | b | 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。 | ○ | 担当職員がケア内容について毎月一回評価を行い支援内容に変更がある場合は、カンファレンスをしている | / | / | ○ | |
| | | c | 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。 | ○ | 介護記録記入時に具体的に記入している。重要なことは介護日誌の申し送りにも記入している | / | / | ○ | |
| | | d | 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。 | ○ | 自分が試みたことは、介護日誌の申し送りに記入し職員間で共有し意見交換している | / | / | ○ | |
| 6 | 現状に即した介護計画の見直し | a | 介護計画の期間に応じて見直しを行っている。 | ○ | ケアプラン更新時に見直しをしている。利用者さんに変化があった時はその都度見直しをしている | / | / | ○ | 月1回担当職員がモニタリングし、利用者に変化が見られた場合にはその都度見直ししている。介護計画変更の必要があれば、すぐに介護支援専門員も含めてカンファレンスを行い、主治医や家族にも相談しプランを見直ししている。 |
| | | b | 新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。 | ○ | 毎月一回支援内容を確認している | / | / | ○ | |
| | | c | 本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。 | ○ | 主治医・ご家族さんに相談をして職員間で話し合いを見直しを行っている | / | / | ○ | |
| 7 | チームケアのための会議 | a | チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。 | ○ | 問題が発生した場合は、職員全員で話し合い検討する。日常的なことは、申し送りに記入している | / | / | ○ | 職員会は定期的にはではなく、必要時に随時開催しており、利用者に変化があれば、職員が集まり介護支援専門員も含めてカンファレンスを行い、検討している。参加できない職員には、書記がまとめた資料を渡すことで内容が伝わるようにしている。 |
| | | b | 会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。 | ○ | 新旧職員全員が意見を言える雰囲気になっている | / | / | / | |
| | | c | 会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。 | ○ | 病院受診やリハビリが、入っていない曜日に開催し業務に支障がないように工夫している | / | / | / | |
| | | d | 参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。 | ○ | レジメに基づき書記がまとめた資料を渡し内容を伝えている | / | / | ○ | |
| 8 | 確実な申し送り、情報伝達 | a | 職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。 | ○ | 申し送りに記入すると共に出勤したら申し送り事項を聴くようにしている | / | / | ○ | 介護日誌の申し送り欄に必要事項を記入するようになっており、その内容がきちんと把握できるよう出勤時に介護日誌を確認し、サインしてから業務に就くようにしている。 |
| | | b | 日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等) | ○ | 申し送り事項を記入している介護日誌をタイムカードの横に置いて出勤時に必ず読みサインするようになっている | ○ | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-----------|-------------------------|-----|---|------|--|------|------|------|---|
| (2) 日々の支援 | | | | | | | | | |
| 9 | 利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援 | a | 利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。 | △ | 利用者さんから申し出があった場合意向に沿うようにしている | / | / | / | ハンガーバーに並んだ衣類の中から、できるだけ利用者を選んでもらうようにしており、失語症の利用者はジェスチャーで意思表示している。言葉が出てこない利用者や意思伝達が難しい利用者については、職員が特に配慮し、利用者一人ひとりの思いを引き出しており、笑顔で会話ができるよう声かけに努めている。 |
| | | b | 利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等) | ○ | 「どちらがいいですか？」と選択してもらったり、「体操しましょうか？」と声をかけを自己決定して頂いている | / | / | ○ | |
| | | c | 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。 | ○ | 利用者さんが、自分の希望が言えるような声かけに努めている | / | / | / | |
| | | d | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等) | ○ | 一応の時間の流れはあるが、利用者さん一人一人のペースにあわせている | / | / | / | |
| | | e | 利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。 | ○ | 利用者さんが笑顔で話しが出来るような声かけに努めている | / | / | ○ | |
| | | f | 意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。 | ○ | 様子観察をし意思決定が出来る利用者さんは、選択方法で声かけをしたり出来ない利用者さんは、表情で見極めるようにしている | / | / | / | |
| 10 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり | a | 職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。 | ○ | 排泄・更衣・入浴等は、プライバシーに配慮した声かけをし(尊厳)の気持ちを持って対応している | ○ | ○ | ○ | 視覚障害のある利用者の「私の大切にしたいことメモ」に、「見えないからといって適当なこと言わないで欲しい」と書かれており、職員は常に利用者の思いを尊重し丁寧に接するよう努めている。失禁への対応には利用者の自尊心を傷つけないよう特に留意し、支援内容について急遽カンファレンスを行うこともある。居室はプライバシーに配慮しながら、利用者にとって良い環境になるようにしている。 |
| | | b | 職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。 | ○ | 利用者さんに適した介護を心掛けている。着衣が汚れた時も周りの方に配慮した声かけ誘導している | / | / | ◎ | |
| | | c | 職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。 | ○ | 声かけやタオルを使用し快く入浴して頂ける様にしている。 | / | / | / | |
| | | d | 職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。 | ○ | ドアのノック(3回)・利用者さんの名前を呼んだ後居室に入る | / | / | ◎ | |
| | | e | 職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。 | ○ | 守秘義務誓約書を提出し理解している | / | / | / | |
| 11 | ともに過ごし、支え合う関係 | a | 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。 | ○ | 利用者さんの知恵袋を貸して頂きながらその時のニーズに応じて対応している | / | / | / | 利用者同士で体調を気遣い合う姿や、他利用者を心配して職員に相談する様子が見られた。難聴の利用者には身振り手振りで伝え、視覚障害の利用者には丁寧に説明しながら、リビングに集まっている皆で会話を楽しむ様子がとても印象的であった。また、大きなトラブルにならないよう職員がさりげなく席を変えたり、間に入り仲を取り持つなどの配慮をしている。 |
| | | b | 職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。 | ○ | 利用者さん同士が声を掛け合って助け合っている。足りない所を職員が手を貸すようにしている | / | / | / | |
| | | c | 職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。 | ○ | レクリエーションなどを通じて利用者さん同士のコミュニケーションがとれるようにしている | / | / | ○ | |
| | | d | 利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。 | ○ | トラブルが発生した場合は、すみやかに間に入り解消に努めている | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-------------------|-----|---|------|---|------|------|------|---|
| 12 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 | a | これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。 | ○ | 家族さんとの面談・入居前施設の情報で情報収集している | / | / | / | |
| | | b | 利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。 | △ | 利用者さんとの会話で聞き取りをし「私の大切なことメモ」に記入しているがわからない事が多く難しい | / | / | / | |
| | | c | 知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。 | ○ | 行きつけの美容院に行ったり、公民館行事に参加することがある | / | / | / | |
| | | d | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | ○ | 家族さんの顔を早く覚えて職員から「○○さんいらっしゃいませ」と声をかけるようにしている | / | / | / | |
| 13 | 日常的な外出支援 | a | 利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む) | △ | 利用者さんの体調・天候をふまえて外出の機会を作っている施設の近隣を散歩したりしている | △ | × | ○ | 天気や利用者の様子を見て、事業所周辺を散歩している。多くの利用者が家族に協力してもらいながら、病院や美容院に行くために定期的に外出している。重度の利用者も体調に合わせて敷地内の花壇の花を見たり、近所を散歩したりしている。 |
| | | b | 地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。 | × | 出来ていない。 | / | / | / | |
| | | c | 重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。 | ○ | 体調に合わせて施設内の花壇の花を見たり、近辺を散歩している | / | / | ○ | |
| | | d | 本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。 | △ | ご家族様に協力して頂いている | / | / | / | |
| 14 | 心身機能の維持、向上を図る取り組み | a | 職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。 | ○ | 介護記録・申し送りで情報を共有し利用者さんにそったケアをしている | / | / | / | 介助がなくても歩行できる利用者が多く、歩行器を押しながら廊下を何往復かすることを日課にしている利用者もいる。食事は時間がかかっても最後まで自分で食べたい利用者もおり、利用者のペースで食べられるよう支援に努めている。 |
| | | b | 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。 | ○ | 嚥下機能低下の利用者さんは、とろみをつけたり刻み食にしたり利用者さんの状態に合わせて、嚥下がスムーズにできるように対応している。姿勢にも気を付けている | / | / | / | |
| | | c | 利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等) | ○ | 新聞折り・ウエス作り・洗濯物たたみ等職員が声かけてして頂いている | ○ | / | ○ | |
| 15 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | a | 利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。 | ○ | 残存能力に応じた役割の声かけをしている | / | / | / | 広告紙で折り鶴を作ったり、ビーズを通したりなどの手先を使う作業を好む利用者や、歌うのが好きな利用者など、利用者一人ひとりの好みの楽しみ方は異なっているが、職員は利用者全員が有意義な時間を過ごせるようレクリエーションのメニューを考えるなど工夫している。 |
| | | b | 認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。 | ○ | 日常的に(困難)と決めつけず日々の生活が楽しくなるように工夫している | ○ | ○ | ◎ | |
| | | c | 地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。 | × | 出来ていない | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|--|-----|--|------|--|------|------|------|--|
| 16 | 身だしなみやおしゃれの支援 | a | 身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。 | ○ | 本人の心地よさ自分意志の決定力を大切にしている | / | / | / | 居室にある衣類はきちんと整頓されており、すべて自分で管理している利用者もいる。自己決定しにくい利用者には職員が寄り添い支援することで、利用者全員が季節に応じた装いをしている。食事の食べこぼしは会話をしながらさりげなく拾うなど、利用者を傷つけることのないよう配慮している。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。 | ○ | ご家族さんに協力依頼し利用者さんの愛用の物を持って来て頂いている | / | / | / | |
| | | c | 自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。 | ○ | 季節・体調を考慮し利用者さんに寄り添って支援している | / | / | / | |
| | | d | 外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。 | ○ | T・P・Oに合わせた洋服の色・組わせに配慮した支援をしている | / | / | / | |
| | | e | 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等) | ○ | 声かけに配慮している。食べこぼしが多い利用者さんは食食用エプロンを使って頂いている。 | ○ | ◎ | ◎ | |
| | | f | 理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | ○ | 行きつけの美容院に行っている。訪問理容を利用している利用者さんには希望の髪型・長さを聴いている | / | / | / | |
| | | g | 重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。 | ○ | 櫛・ブラシを手渡しご自分で鏡を見て整髪することで利用者さんの笑顔を引き出すように工夫している | / | / | ◎ | |
| 17 | 食事を楽しむことのできる支援 | a | 職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。 | ○ | 生きる意欲に繋がる食事を提供 | / | / | / | あらかじめ配達してもらっている米や肉類以外の食材は職員が買いに行っており、利用者も一緒に行くこともある。大根おろしなど、利用者ができることは手伝ってもらっている。旬のものを取り入れることもあり、彩り良く盛り付けるよう心がけている。食器類については、利用者が使い勝手のいいものを使い、食べやすいよう配慮している。職員は利用者へ食事のメニューを伝えたり、おかずを取りやすいよう手前に置いたり、会話をしたりすることで食事を楽しめる雰囲気づくりに努めている。職員は利用者が食べ終わった後に同じものを食べているため、可能な日には利用者と一緒に食事や午後のおやつを楽しむ時間が持てるような工夫に期待したい。重度の状態でも食事の声かけの際にメニューのことを伝えるなど、雰囲気づくりに努めている。献立は前もって決めておらず、メニューが重ならないよう献立表を確認し、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう食材には注意を払い調理している。 |
| | | b | 買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。 | ○ | 下膳したり食材の前作業を手伝って貰っている | / | / | ◎ | |
| | | c | 利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。 | ○ | 声かけにて軽い食器の物は片付けをして頂いている | / | / | / | |
| | | d | 利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。 | ○ | 家族からの基本情報を聴き把握している | / | / | / | |
| | | e | 献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。 | ○ | 旬の野菜や彩りよく盛り合わせし苦手なものも箸を伸ばしやすくしている | / | / | ○ | |
| | | f | 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等) | ○ | 繊維質の食事を提供しつつ調理を工夫する | / | / | / | |
| | | g | 茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。 | ○ | 腕力に応じた食器を使用している | / | / | ○ | |
| | | h | 職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。 | ○ | 食事メニューを伝え、おかずを取りやすく手前に置くなど工夫している | / | / | △ | |
| | | i | 重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。 | ○ | 食事の声かけの時、メニューを伝えたり会話をし、ふいんき作りに配慮している | ○ | / | ◎ | |
| | | j | 利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。 | ○ | 一人一人に合わせて食べやすい様に工夫したり、嚥下防止に努め出来るだけ完食して頂くように声かけしている | / | / | / | |
| | | k | 食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。 | ○ | 職員同士の申し送りや知識や意識を持ち対応し、摂取出来ない利用者には飲料の種類変更や時間帯の変更をしている | / | / | / | |
| l | 職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。 | ○ | 献立表を確認しメニューが重ならない様に配慮する | / | / | ○ | | | |
| m | 食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。 | ○ | 期限が過ぎた食材は使わず、調理用具などの衛生管理をしている | / | / | / | | | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|----------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 18 | 口腔内の清潔保持 | a | 職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。 | ○ | 職員同士で声かけをし、利用者の口腔ケアの有無を確認している | / | / | / | 毎食後、職員の声かけにより、利用者自身で歯磨きや義歯洗浄を行っている。職員が口腔内の状態を確認し、必要があれば介助している。痛みなどがある場合には訪問歯科を利用するなど、口腔内を清潔に保てるよう努めている。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。 | △ | 毎食後口腔ケアをし状態確認している | / | / | ◎ | |
| | | c | 歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。 | ○ | 訪問歯科等にパンフレット等資料を頂き、指導を受け、職員間で共有している。 | / | / | / | |
| | | d | 義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。 | ○ | 毎食後口腔ケアをし義歯洗浄している | / | / | / | |
| | | e | 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等) | ○ | 口腔ケアの声かけをし自身で出来ない方も職員が介助し、口腔の清潔を保つようにしている | / | / | ◎ | |
| | | f | 虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。 | ○ | 訪問歯科などを利用している | / | / | / | |
| 19 | 排泄の自立支援 | a | 職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。 | ○ | 理解、知識は習得出来ているが、少しマンネリになっているように思います。 | / | / | / | 布パンツや紙パンツ、パッドの使用など、利用者の状態に合わせて調整し、日中は利用者全員がトイレで排泄できるよう支援している。転倒防止のため、利用者の希望に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。自然排便できるよう、ヨーグルトや牛乳、根菜類等を積極的に食事に取り入れるなど、なるべく薬に頼らないよう支援している。 |
| | | b | 職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。 | ○ | 飲食物の工夫や運動への働きかけをしている | / | / | / | |
| | | c | 本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等) | ○ | 排泄チェック表で利用者一人一人の排泄パターンを把握している | / | / | / | |
| | | d | 本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。 | ○ | 一人一人の状態を職員で共有し、トイレでの自立を支援している | ◎ | / | ◎ | |
| | | e | 排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。 | ○ | 職員間で話し合いをし日々改善できる点を探し検討している | / | / | / | |
| | | f | 排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。 | ○ | 時間毎の声かけ、トイレ誘導を行っている | / | / | / | |
| | | g | おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。 | ○ | 入居時に家族、本人と話あい、好みの選択が出来るように支援している。時間帯や生活状況のなかで、相談しながら進めていっている。 | / | / | / | |
| | | h | 利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。 | ○ | 利用者一人一人適時使い分けている | / | / | / | |
| | | i | 飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み) | ○ | 自然排便できるように食事や水分に気をつけラジオ体操などの運動をしている | / | / | / | |
| 20 | 入浴を楽しむことができる支援 | a | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。 | ○ | 利用者の体調や気分が入らない時は無理に入れず、翌日などに入れるようにしている | ◎ | / | ○ | 事業所の別フロアに機械浴があるが、現在は使用しておらず、利用者は一般浴槽で入浴している。午前中から順番に、1日に3名ずつ、1週間に3回程度入浴できるよう調整している。入浴を嫌がる利用者もいるが、日や時間帯を変えて声かけを行うなど工夫し入浴することができている。 |
| | | b | 一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。 | ○ | 職員の都合で急がせることなく会話を楽しみながら入浴している | / | / | / | |
| | | c | 本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。 | ◎ | 自分でできる事はしていただき見守り介助の支援をしている | / | / | / | |
| | | d | 入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。 | ○ | 職員で話し合いをし無理強いせず入浴を支援している | / | / | / | |
| | | e | 入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。 | ○ | 入浴前に血圧を測り入浴の可否を見極めている。入浴後声かけなどをし健康状態を確認している | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|----------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 21 | 安眠や休息の支援 | a | 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。 | ○ | 日々の記録にて把握している | / | / | / | 日中に起床している時間を増やすよう努めることで大体の利用者が良く眠ることができている。毎晩就寝前に処方薬を飲んでいる利用者もあり、医師と連携を取りながら総合的な支援を行っている。寝つきの悪い日には、眠くなるまでリビングで過ごしてもらうなど、利用者のペースで休めるよう努めており、安易に薬剤に頼らない支援に取り組んでいる。 |
| | | b | 夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。 | △ | 昼間に体操などをし離床している時間を増やし工夫している | / | / | / | |
| | | c | 睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。 | ○ | 毎日の生活状況を把握し支援内容を検討し医師とも連携をとり総合的な支援を行っている。 | / | / | / | |
| | | d | 休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。 | ○ | 一人一人の状態や休息を希望された場合は時間帯にとらわれず休んでいただいている | / | / | / | |
| 22 | 電話や手紙の支援 | a | 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | ○ | 手紙のやり取りを支援している | / | / | / | |
| | | b | 本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。 | ○ | 手紙を書いたり読んだり出来ない利用者には職員が手助けしている | / | / | / | |
| | | c | 気兼ねなく電話できるよう配慮している。 | ○ | 何時でも電話の要望があれば対応している。 | / | / | / | |
| | | d | 届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。 | ○ | 差出人の名前を利用者に伝え届いた手紙を渡している | / | / | / | |
| | | e | 本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。 | △ | 本人の自由意思では難しいが、急を要する場合は職員が家族に電話して来てもらうなどしている。 | / | / | / | |
| 23 | お金の所持や使うことの支援 | a | 職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。 | × | 自己管理が出来ない人がほとんどのため、現状では行っていない | / | / | / | |
| | | b | 必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。 | △ | 本人が直接出かけることはないが、立替金を使用し職員が代わりに購入するようにしている | / | / | / | |
| | | c | 利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。 | × | 実施していない | / | / | / | |
| | | d | 「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | × | 自己管理は難しいため、入居時に家族にお金は所持しない旨を伝えている。個人購入の品については立替金で対応している | / | / | / | |
| | | e | お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。 | × | 入居時お金は所持しないと家族に伝えている | / | / | / | |
| | | f | 利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。 | ◎ | 立替金にて対応している。家族にも明確に伝えている | / | / | / | |
| 24 | 多様なニーズに応える取り組み | | 本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | ○ | 普段の様子から本人の好きな物を探り出し、会話の話題にしたり、レクリエーションで活用したりしている | ◎ | / | ◎ | 職員の付き添いで久しぶりに馴染みの美容室に行くことができた利用者は、「髪型が崩れるのが惜しいから眠りたくない」と言われる程に喜んでいった。入院中の妻の様子が気になる男性利用者には、電話で妻と話せるよう調整するなど、利用者の要望に応じた支援に努めている。 |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|------------|-----------------------|-----|---|------|---|------|------|------|--|
| (3)生活環境づくり | | | | | | | | | |
| 25 | 気軽に入れる 玄関まわり等の配慮 | | 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | ◎ | 日々の清掃、季節ごとの提示物等注意して行っている。 | ◎ | ◎ | ○ | 玄関等には季節の飾り物をしたり、清掃を毎日こまめに行い清潔感が感じられるなど、来訪者が気持ちよく入れるよう配慮している。 |
| 26 | 居心地の良い 共用空間づくり | a | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。) | ◎ | 季節ごとの飾り物や掲示物、また健康に関する掲示も行っている。家庭的な中でも衛生面、清掃も日々注意して行っている | ◎ | ○ | ○ | 廊下やリビングなどの共用空間も掃除が行き届き整頓されている。アルコールでの消毒や消毒消臭剤スプレーを使用するなど、衛生的な空間になるよう努めている。掃除は主に職員がしているが、汚物処理に使う新聞を畳んだり、台拭きをしたりと可能な範囲で利用者にも手伝ってもらっている。廊下の壁には、季節が感じられるものや利用者と一緒に作ったちぎり絵を飾っている。 |
| | | b | 利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。 | ◎ | 日々充分留意し清掃に取り組んでいる。 | / | / | / | |
| | | c | 心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | ○ | 季節ごとの飾り付け、地域の行事、日々のニュースや出来事なども取り入れ、本人と会話の話題にしている。 | / | / | / | |
| | | d | 気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。 | ◎ | 日々利用者の行動や言動を観察し、その人の好きな人や好む場所を理解するように努めている | / | / | / | |
| | | e | トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。 | ◎ | ドア、カーテンを設置しプライベートに注意している | / | / | / | |
| 27 | 居心地良く過ごせる 居室の配慮 | | 本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ◎ | 入居時家族や本人から聞き取りを行い、本人の居室に可能な範囲内で設置している | ○ | / | ◎ | 居室の入口には部屋番号と氏名がかけられ、利用者が居室を間違えないよう配慮されている。自宅からベッドを持ち込んでいる利用者も多く、カーテンも自分のものを使っている。テレビや冷蔵庫を置いている利用者もあり、自宅に近い雰囲気の空間になっている。 |
| 28 | 一人ひとりの力が 活かせる環境づくり | a | 建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。 | ◎ | 利用者一人一人に合わせて介助方法を変更している。また職員同士でも日々介助方法の情報共有に努めている | / | / | ○ | 職員は、利用者毎に「できること」をきちんと把握し、極力取り組んでもらうなど、自立した生活が送れるよう支援している。利用者全員が一緒に過ごしている時にも、個別に対応し配慮している様子を窺うことができた。 |
| | | b | 不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。 | ○ | 職員同士で情報を共有し、また記録にも残すことで、以後の対応に役立てている | / | / | / | |
| | | c | 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等) | ○ | 火傷やけがなど無きよう、十分安全に配慮した上で可能な限り実施している | / | / | / | |
| 29 | 鍵をかけない ケアの取り組み | a | 代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等) | ○ | 職員全体理解はしている。しかし徘徊や転倒など安全面を考慮したうえで施錠している | ◎ | ◎ | △ | 以前は鍵をかけていない時期もあったが、ユニットの出入口はリビングにいる職員からは死角になり、利用者の階段転落の危険性もあるため、安全確保を優先し施錠している。今後は職員が常に利用者の安全が確保できるよう見守りながら、自由に玄関から出入りできるような支援にも取り組んで欲しい。 |
| | | b | 鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。 | × | 自己管理、自己判断が出来ない利用者がほとんどのため、実施していない。常時施錠に関しては、家族に説明し、入居時、理解していただいている。 | / | / | / | |
| | | c | 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。 | × | 上記同様、安全面を最優先させているため、常時施錠している | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|------------------|------------------|-----|---|------|--|------|------|------|----------------------------|
| (4) 健康を維持するための支援 | | | | | | | | | |
| 30 | 日々の健康状態や病状の把握 | a | 職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。 | ◎ | 個人ファイルにて、日々確認を行っている。また職員間の情報共有も徹底している | / | / | / | |
| | | b | 職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。 | ◎ | 日々のバイタルチェックや目視での観察を怠らず、ファイルに記録している。またかかりつけの病院や担当医からの情報も共有、留意している | / | / | / | |
| | | c | 気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。 | ◎ | 隣接している医療機関やかかりつけの病院、また家族とも情報を共有している。またこちらが気になる事があれば、即座に家族、医療機関、担当医に相談するようにしている | / | / | / | |
| 31 | かかりつけ医等の受診支援 | a | 利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。 | ○ | これまでの、かかりつけ医を基本としつつ専門医受診時には、お薬手帳を持参する | ◎ | / | / | |
| | | b | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | ○ | 本人、家族の意向を優先している | / | / | / | |
| | | c | 通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。 | ○ | 本人、家族の不安、心細さを少しでも取り除ける様コミュニケーションを取っている | / | / | / | |
| 32 | 入退院時の医療機関との連携、協働 | a | 入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。 | ○ | 基本情報、処方箋、お薬手帳の提出をし、情報提供を行っている。 | / | / | / | |
| | | b | 安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 | ○ | 家族や病院関係者と連絡を取る様に努めている | / | / | / | |
| | | c | 利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。 | ○ | 関係医療機関とは良好な関係作りに努めている | / | / | / | |
| 33 | 看護職との連携、協働 | a | 介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。 | ○ | 担当看護師に健康チェック表を確認してもらい体調に変化のあった場合は報告、相談している | / | / | / | |
| | | b | 看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。 | ○ | 隣接している病院、院長の連絡先を把握している | / | / | / | |
| | | c | 利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。 | ○ | 食事量、体調の変化を職員全員で把握している | / | / | / | |
| 34 | 服薬支援 | a | 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。 | ○ | 処方箋、効能効果等の用紙を見て理解している | / | / | / | |
| | | b | 利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。 | ○ | 一週間毎に職員が薬をセットし、その都度、曜日、食後の薬を準備する | / | / | / | |
| | | c | 服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。 | ○ | 一錠づつ声かけしながら手渡しして誤飲を防いでいる。服薬確認作業後も、暫くは様子を見守っている | / | / | / | |
| | | d | 漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。 | ○ | 一日の流れの中で職員同士の連携を図りながら情報提供している | / | / | / | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 35 | 重度化や終末期への支援 | a | 重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。 | ○ | 契約時に看取りについてご家族の思いを記録に残している。状態の変化の応じその都度家族と相談している。又看取りのカンファレンスを実施している。 | / | / | / | 事業所での看取りも多く、看取りの経験がある職員も多い。現在は対象となる利用者はいないが、家族を交え主治医や職員、利用者等と終末期のあり方について話し合い情報を共有している。 |
| | | b | 重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。 | ○ | ご家族の意向を主治医や職員と情報共有し都度カンファレンスを実施している。 | ○ | / | ○ | |
| | | c | 管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。 | ○ | 介護者の力量は把握できている。支援可能なように日頃から相談や指導を実施している。 | / | / | / | |
| | | d | 本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。 | ○ | 家族間の事情の把握は日頃から努めて、配慮しながら連携を取っています。 | / | / | / | |
| | | e | 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | ○ | 終末期に向けて研修や経験を重ねその都度申し送りや医療機関の指導を仰ぎながら緊急時には医療機関にすぐ連絡がとれる体制を作っている。 | / | / | / | |
| | | f | 家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等) | ○ | 常に家族と連絡をとり必要以上に不安な思いにならない様に努めている。 | / | / | / | |
| 36 | 感染症予防と対応 | a | 職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。 | ○ | 行政や医療業者等情報や社内研修の場を持ち常に利用者の体調管理に努めている。 | / | / | / | |
| | | b | 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。 | ○ | 感染症マニュアルを作りてじゅんに沿った対応を研修で学んでいるが、訓練は出来ていない。 | / | / | / | |
| | | c | 保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。 | ○ | 行政からのメールや情報を元に職員に伝達を共有するように努力している。 | / | / | / | |
| | | d | 地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。 | ○ | 情報収集をし日誌や申し送りにて徹底している。 | / | / | / | |
| | | e | 職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。 | ○ | 手洗いは徹底できているがうがいはじゅうぶんではないので徹底するようにしたい。来訪の方には入口に消毒液とマスクを設置し利用を促している。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|---------------------|----------------------------|-----|---|------|--|------|------|------|---|
| II. 家族との支え合い | | | | | | | | | |
| 37 | 本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援 | a | 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | ○ | 入居時やケアプラン更新の際にも意向確認を実施しており面会時や家族連絡の時日常の報告をし関係を築いている。 | / | / | / | 利用者の食事時間に同席してもらったり、美容室等外出時に同行してもらったり、来訪してもらう機会をつくるようにしている。来訪する機会の少ない家族にも利用者の様子を知ってもらえるよう、2か月ごとにホーム便りを家族に郵送し、事業所の運営上のことや職員のことなどについて報告している。家族が相談しやすいよう意見箱を設置しているが、あまり活用されていないため、今後は家族が要望を伝えやすいような工夫を検討している。職員は家族の面会時に気軽に話せるよう声かけするなど、雰囲気づくりにも努めている。 |
| | | b | 家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等) | ○ | 面会時間は特に決まっておらずご家族の都合のよい時間に来所して頂ける様に日頃からお声かけをしている。 | / | / | / | |
| | | c | 家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等) | ○ | 面会時に食事時間でも同席頂いたり通院、美容室等外出し外食に出かけたりの機会を多く持てる声かけをしている。 | x | / | ○ | |
| | | d | 来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等) | ○ | 2か月に1度のホームだよりで生活の様子をお知らせしたり体調の変化など含め電話も利用しておつたえている。 | ○ | / | ◎ | |
| | | e | 事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。 | ○ | 意見箱を設置して意見の収集に努めているが直接職員に頂くことが多い。 | / | / | / | |
| | | f | これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等) | ○ | 入居前からの生活状況を家族または、本人の会話からわたしの大切な事としてメモをし職員間で共有し対応等に活かしている。 | / | / | / | |
| | | g | 事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等) | ○ | 毎日の日誌で申し送りまたカレンダーに日々の予定を記入し全員で共有している。 | x | / | ○ | |
| | | h | 家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ) | △ | 行事の際の声かけや働きかけはしている。 | / | / | / | |
| | | i | 利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | ○ | ニーズや目標をケアプランを通じ説明をし都度家族の希望を聞き話し合いをもっている。 | / | / | / | |
| | | j | 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。 | ○ | 面会や電話での相談はいつでも受けている職員も気軽に話せる状況をこころ掛けている | / | / | ○ | |
| 38 | 契約に関する説明と納得 | a | 契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。 | ○ | 管理者が文章とともに納得がいくように説明をし納得を得ている。 | / | / | / | |
| | | b | 退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。 | ○ | 退去の意向があれば詳しい事由を聞き取り必要があれば転居先にスムーズに移行出来るように面談、連絡を行い調整をしている。 | / | / | / | |
| | | c | 契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等) | ○ | 重要事項に準じて説明している。料金の改定があれば文章により通達している。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|------------|---|-----|---|------|--|------|------|------|--|
| Ⅲ.地域との支え合い | | | | | | | | | |
| 39 | 地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア | a | 地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。 | △ | 現在は役割の理解を頂いているが、設立段階では、説明がなされていない。 | / | △ | / | 地域から案内をもらっている敬老会などには、利用者と一緒に積極的に参加している。地域の文化祭に参加し利用者が住んでいた馴染みの人に会うなど、関係者とのつきあいを深め、地域とのつながりは強固である。 |
| | | b | 事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等) | ○ | 町内行事や町内の学生の体験学習などを通じ、暮らしの楽しみとして、関係を深めている。 | / | × | ○ | |
| | | c | 利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。 | △ | 定期的にボランティアの方が支援くださるが増えてはいない。 | / | / | / | |
| | | d | 地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。 | △ | 敷地内のベンチで休憩をして、声かけをすることはあるが、尋ねてくることは少ない。 | / | / | / | |
| | | e | 隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。 | △ | ホームが2階からの建物で、中に気軽に立ち寄ることは少ない。ご挨拶をすることはある。 | / | / | / | |
| | | f | 近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援) | △ | 傾聴ボランティアの方々等、月2度の来訪等、又、地域の学校の学生ボランティアなどから行事の支援がある。 | / | / | / | |
| | | g | 利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | △ | 1人1人の暮らしの地域資源の把握は充分ではない。 | / | / | / | |
| | | h | 地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。 | △ | 理美容店、福祉施設消防などには、関係を深める取り組みを行っている。 | / | / | / | |
| 40 | 運営推進会議を活かした取り組み | a | 運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。 | ○ | 利用者や地域の人参加はあるが、家族の参加はなかなか頂けないので、今後も声かけを続けます。 | × | / | △ | 利用者や地域の方は参加しているが、毎回家族の参加が少ないことが課題となっており、今後は議題や案内方法などを工夫するなど、家族の参加が増えるような取組みに期待したい。前回の運営推進会議では、災害に関して意見交換をしており、事業所からは備蓄について報告している。また、自己評価や外部評価の内容や目標達成計画も公表している。運営推進会議で出た意見は、職員間で共有しサービスの向上につなげている。 |
| | | b | 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。 | ○ | 評価内容、達成計画の内容について、公表し、報告している。 | / | / | ◎ | |
| | | c | 運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。 | ○ | 会議の議事録を公表し、その都度出た意見について、職員間で共有し、サービスの向上に活かしている。 | / | ◎ | ○ | |
| | | d | テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。 | ○ | 運営推進会議等、参加メンバーを増やすように日程、時間帯について相談している。 | / | / | ○ | |
| | | e | 運営推進会議の議事録を公表している。 | ○ | 開催後、リビング窓口に議事録を公表している。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|----------------------------|---|-----|---|------|--|------|------|------|---|
| IV.より良い支援を行うための運営体制 | | | | | | | | | |
| 41 | 理念の共有と実践 | a | 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。 | ○ | 各ユニットで目に見える場所に掲げている。研修を行なったり日々の業務のなかで再確認している。 | / | / | / | |
| | | b | 利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。 | ○ | 利用者、家族の目につきやすい場所に掲げて、質問があれば説明を行っている。 | △ | ◎ | / | |
| 42 | 職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。 | a | 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。 | ○ | 年間行事を作成し、研修を受けられえるよう取り組んでいる。 | / | / | / | 代表者は人間関係や職員の能力に配慮しており、無資格や未経験で入職した職員も徐々に仕事に慣れ、モチベーションが上がってきている様子が窺える。職員のスキルアップのため資格取得や研修受講などにも積極的であり、職員は働きがいのある職場であると感じている。 |
| | | b | 管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。 | △ | OJTの計画は立てているが、日常業務で突発的なことが起こるなどして、実行は遅れ気味である。 | / | / | / | |
| | | c | 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | ○ | 給与水準や労働時間の向上に努めている。認知症介護実践者研修や資格取得を目標とし、努力が評価に反映される仕組みがある。 | / | / | / | |
| | | d | 代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加) | △ | グループホーム協会に加入しており、研修案内があれば参加する様になっているが、相互研修はしていない。 | / | / | / | |
| | | e | 代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | ○ | 人間関係や職員の力量等に配慮し勤務に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ◎ | |
| 43 | 虐待防止の徹底 | a | 代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。 | ○ | 社内研修で繰り返し学んでいる。カンファレンス時にも、虐待や不適切なケアについて話あっている。 | / | / | / | 職員は虐待防止に関する研修を定期的を受講し、カンファレンスでも虐待や不適切なケアについて話し合っており、虐待に対して注意を払い、見つけた場合はマニュアルに基づき対応するよう共有している。 |
| | | b | 管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。 | ◎ | 年度末に1年を振り返り、良かったこと、反省点、改善点を話あっている。 | / | / | / | |
| | | c | 代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。 | ◎ | 虐待については注意を払っている。発見した場合は、マニュアルを基に対応する。 | / | / | ○ | |
| | | d | 代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。 | ◎ | 日常的に注意を払い、点検している。 | / | / | / | |
| 44 | 身体拘束をしないケアの取り組み | a | 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。 | ○ | 身体拘束の話し合いや都度相談を受け確認を行っている。 | / | / | / | |
| | | b | どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。 | ◎ | 拘束は行っておらず、資料や勉強会により話し合っている。 | / | / | / | |
| | | c | 家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。 | ○ | 入居時に家族に説明し理解して頂き、変更があれば都度、管理者より家族へ報告し理解して頂いている。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-----------------------|-----|--|------|---|------|------|------|---|
| 45 | 権利擁護に関する制度の活用 | a | 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。 | ◎ | 社内研修で繰り返し学んでいる。 | / | / | / | |
| | | b | 利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。 | ○ | 管理者やケアマネから相談があれば説明する。 | / | / | / | |
| | | c | 支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。 | △ | 今までに相談を受けた事例はなく、相談があればいつでも支援が出来る体制にある。 | / | / | / | |
| 46 | 急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み | a | 怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。 | ○ | マニュアルに沿って行動できるように職員間で確認しながら取りくんでいる。 | / | / | / | |
| | | b | 全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | △ | 何時でも行動が取れるように話あっているが、日常的な訓練は行っていない。 | / | / | / | |
| | | c | 事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。 | ○ | その都度、何かあればヒヤリハットにまとめて職員間で共有し徹底している。 | / | / | / | |
| | | d | 利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。 | ○ | 日頃より予測、検討を行い未然に防げるよう努めている。 | / | / | / | |
| 47 | 苦情への迅速な対応と改善の取り組み | a | 苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。 | ○ | 日常、職員間で話し合いを重ね、対応を検討している。 | / | / | / | |
| | | b | 利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。 | ○ | 日頃から、納得していただける様話し合いを持ち必要があれば相談をしている。 | / | / | / | |
| | | c | 苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。 | ○ | 話あいを重ねその都度、迅速に対応している。 | / | / | / | |
| 48 | 運営に関する意見の反映 | a | 利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等) | △ | 地域の介護相談員のかたに、定期的に訪問して頂いたり職員が利用者との関わりの中で個別に聞いたりしている。 | / | / | ○ | 定期的に事業所を訪問している地域の介護相談員に、利用者の要望などを聞いてもらっている。家族からの意見は職員に直接言ってもらっている。さらに意見箱等をPRし、より家族が要望を言いやすいよう検討している。管理者は日頃から職員の意見を聞くよう努めており、気になることがあればすぐに職員会議等話し合いの場を持つようにしている。 |
| | | b | 家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等) | ○ | 意見箱を設置して意見の収集に努めているが直接職員に頂くことが多い。 | ○ | / | ○ | |
| | | c | 契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。 | ○ | 公的な窓口の情報を、リビングに、掲示している。 | / | / | / | |
| | | d | 代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。 | ○ | 管理者を通じ職員の意見、要望を聞いている。 | / | / | / | |
| | | e | 管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。 | ○ | 日常的に、意見を聞き取り都度、利用者の支援に生かせるように検討している。 | / | / | ◎ | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|---------------|-----|---|------|-------------------------------------|------|------|------|--|
| 49 | サービス評価の取り組み | a | 代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。 | ◎ | 年1回、全員で自己評価に取り組んでいる。 | | | | それぞれのユニット毎に、ユニットリーダーが中心となって自己評価を行い、運営推進会議で毎回サービス評価の取り組みの報告をしている。今回、外部評価におけるアンケートの回収率が高く、家族や地域の人の事業所運営への関心の高さが窺え、今後はモニター等をしてもらうなどの取り組みに期待したい。 |
| | | b | 評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。 | ◎ | 職員全員が自己評価に取り組む過程が、意識統一や学習の機会となっている。 | | | | |
| | | c | 評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。 | ◎ | 目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で、取り組んでいる。 | | | | |
| | | d | 評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。 | × | モニターはしてもらってない。 | × | △ | △ | |
| | | e | 事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。 | △ | 職員間での確認のみである。 | | | | |
| 50 | 災害への備え | a | 様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等) | ○ | マニュアルを作成し職員間にて、確認、訓練の向上に努めている。 | | | | 避難訓練などを実施しているが、事業所単体でのものである。今後は地域の訓練への事業所からの参加などを検討し、地域との合同の避難訓練等にも取り組むことが望まれる。 |
| | | b | 作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。 | ○ | 日常的に利用者が非難できるように作成している。 | | | | |
| | | d | 消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。 | ○ | 非常食や備品等対応できるように、日頃より場所確認をその都度行っている。 | | | | |
| | | e | 地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。 | ○ | 年2回訓練を消防立会いにて行い、それ以外にも自主訓練を行っている。 | × | ○ | △ | |
| | | f | 災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等) | ○ | 地域の防災訓練に参加している。 | | | | |
| 51 | 地域のケア拠点としての機能 | a | 事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等) | △ | 依頼があれば応じるが、積極的な発信はしていない。 | | | | 地域からの相談ニーズが増えるよう事業所のPRなどにも努め、積極的に相談にも対応することが望まれる。傾聴ボランティアや中学生の職場体験の受け入れを行っているが不十分なので、町や地域包括支援センター等とも連携し、地域イベント等開催などの取り組みに期待したい。 |
| | | b | 地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。 | × | 相談があれば応じる。 | | × | △ | |
| | | c | 地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等) | △ | 地方祭の時は神輿の休憩場所として開放している。 | | | | |
| | | d | 介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。 | ○ | 毎年中学校の体験学習に来ていただいて、入居者と触れ合っている。 | | | | |
| | | e | 市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等) | ○ | 町や地域包括支援センター主催のイベントには都度参加している。 | | | △ | |

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 愛媛県松山市持田町3丁目8-15 |
| 訪問調査日 | 平成29年11月16日 |

【アンケート協力数】※評価機関記入

| | | |
|------------|-----------|-----------|
| 家族アンケート | (回答数) 14名 | (依頼数) 18名 |
| 地域アンケート回答数 | 8名 | |

※事業所記入

| | |
|----------|-------------|
| 事業所番号 | 3873500650 |
| 事業所名 | グループホーム浜っ子 |
| (ユニット名) | おあしす |
| 記入者(管理者) | |
| 氏名 | 西内 美知子 |
| 自己評価作成日 | 平成29年10月20日 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>【事業所理念】 あなたに笑顔で (自分がされていやなことはしない) あなたの笑顔を (自信をもってもらう) あなたと笑顔で (その人らしい人生が送れるよう)</p> | <p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ●運営推進会議では、ホーム便りを回覧して利用者様の様子を伝えたり、案内を頂いた行事に参加することで議題の事柄に関心のあるものにした結果、意見交換が活発になった。開催日の日時は、ご意見を伺ったが、従来通りがよいとのことだった。 ●看取りに関しては、終了した時の振り返りが充分に出来てないように思われる。 次回への問題点として改善に取り組み、看取りについての研修を行う。</p> | <p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者が交代したばかりなこともあり、職員が一丸となって取り組んでいる様子を感じられた。職員全員の対応がとても礼儀正しく丁寧で、常に穏やかである。新人職員も先輩職員に習って、利用者により優しく接している様子が窺えるなど、利用者本位のケアが実践できるよう職員皆で取り組んでいる。</p> |
|---|---|---|

評価結果表

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------------------------|--|-----|--|------|---|------|------|------|---|
| I. その人らしい暮らしを支える | | | | | | | | | |
| (1) ケアマネジメント | | | | | | | | | |
| 1 | 思いや暮らし方の希望、意向の把握 | a | 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | ○ | 利用者との会話、日々の観察、これまでの生活歴を参考にしている。 | ○ | / | ○ | 「私の大切にしたいことメモ」を活用しながら、職員が利用者から聞き取った情報を手書きで追記し、更新時に介護支援専門員が入力している。「私の大切にしたいことメモ」には、利用者の希望や嬉しいこと、苦しみ、不安なこと、何と呼んでほしいかなどを記入するようになっており、わかりやすくまとめられている。 |
| | | b | 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。 | ○ | 困難な方には、返答しやすい内容を提案し選択してもらうようにしたり、家族さんに聞いている | / | / | / | |
| | | c | 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。 | ○ | 面会時など、聞き取りを行っている。 | / | / | / | |
| | | d | 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。 | ○ | 日々の暮らしにて変化を見逃さないよう「私の大切なことメモ」に記入し、職員間で共有している。 | / | / | / | |
| | | e | 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。 | ○ | 職員同士気を配り見落とししないよう努めている。 | / | / | / | |
| 2 | これまでの暮らしや現状の把握 | a | 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。 | ○ | 入居時に家族さんからの聞き取りや入居前の施設などの資料で既往歴、生活歴の個人情報資料を作り共有している | / | / | ○ | 利用者毎の担当職員が中心となり、家族等から得た入居前の情報をもとに個人情報資料をつくり職員間で共有し、日々の支援の中で少しずつアセスメントを深めている。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。 | ○ | その時々で、出来る出来ないを見極め、現状把握に努めている。 | / | / | / | |
| | | c | 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。 | ○ | 行動や表情、言葉の変化一つ一つの把握に努めている。 | / | / | / | |
| | | d | 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等) | ○ | 不安になる前の状態、様子観察を行い要因について話し合い把握に努めている。 | / | / | / | |
| | | e | 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。 | ○ | 記録、職員間の情報の共有を行っている。 | / | / | / | |
| 3 | チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む) | a | 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。 | ○ | 本人にもお話を聞き把握に努めている。 | / | / | ○ | 利用者との会話などから聞き取った情報について担当職員が中心となってアセスメントを行い、職員間で情報を共有し記録している。課題整理シートを用いてアセスメント分析を行い、できていなければどうすればできるようになるのかを考慮し、介護計画作成につなげている。 |
| | | b | 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。 | ○ | 本人や家族の要望に沿うように話し合い、どのように行えるか検討する。 | / | / | / | |
| | | c | 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。 | ○ | 本人が負担や苦とならないような支援内容になっているか日々話し合っている。 | / | / | / | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|--------------------------|-----|--|------|---|------|------|------|---|
| 4 | チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画 | a | 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。 | ○ | 計画に基づいてよりよく過ごされるよう努めている。 | / | / | / | カンファレンスで職員から出された意見をもとに、介護支援専門員と担当職員が相談しながら介護計画を作成している。利用者に変化が見られた場合には家族に相談しており、主治医からアドバイスを受けることもある。 |
| | | b | 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。 | ○ | 家族、本人、の意見に、耳を傾け、安全の元どのように出来るか、作成に努めている。 | ○ | / | ○ | |
| | | c | 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。 | ○ | 本人が、昔、好きだったものや、食べなれていたものを提供するなどの支援をしている。 | / | / | / | |
| | | d | 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。 | △ | 家族等と相談の上負担にならないよう随時連絡を行う。 | / | / | / | |
| 5 | 介護計画に基づいた日々の支援 | a | 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。 | ○ | 計画書のファイルを職員全体にて確認している。 | / | / | ○ | 職員が記録していく日々の記録用紙の他に介護支援専門員用記録が別になり、双方をまとめる形でモニタリングし、支援内容に変更がある場合はカンファレンスを行うことで介護計画作成につなげている。利用者の様子については介護記録に具体的に記入し、重要事項は介護日誌の申し送りにも記入している。職員が自身のアイデアなどを実施した際にも、介護日誌の申し送りに記入し職員間で共有し意見交換している。 |
| | | b | 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。 | ○ | 担当職員がケア内容について毎月一回評価を行い支援内容に変更がある場合は、カンファレンスをしている。 | / | / | ○ | |
| | | c | 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。 | ○ | 個々において、その都度、様子を記録を行っている。 | / | / | ○ | |
| | | d | 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。 | ○ | 情報を共有し一人一人に合った生活がおくれるようアイデアを出し合い記録を行っている。 | / | / | ○ | |
| 6 | 現状に即した介護計画の見直し | a | 介護計画の期間に応じて見直しを行っている。 | ○ | 合わなかったり変更があれば、随時行っている。 | / | / | ○ | 月1回担当職員がモニタリングし、利用者に変化が見られた場合にはその都度見直している。介護計画変更の必要があれば、すぐに介護支援専門員も含めてカンファレンスを行い、主治医や家族にも相談しプランを見直している。 |
| | | b | 新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。 | ○ | 毎月一回支援内容を確認している。 | / | / | ○ | |
| | | c | 本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。 | ○ | 状態の変化があれば、新たに作成を行う。 | / | / | ○ | |
| 7 | チームケアのための会議 | a | チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。 | ○ | 緊急にかかわらず、こまめに、問題を上げ解決に努めている。 | / | / | ○ | 職員会は定期的にはではなく、必要時に随時開催しており、利用者には何か変化があれば、職員が集まり介護支援専門員も含めてカンファレンスを行い、検討している。参加できない職員には、書記がまとめた資料を渡すことで内容が伝わるようにしている。 |
| | | b | 会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。 | ○ | 一方的に、進めず、意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。 | / | / | / | |
| | | c | 会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。 | △ | 病院受診やリハビリが、入っていない曜日に開催し業務に支障がないように工夫している | / | / | / | |
| | | d | 参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。 | ○ | レジメに基づき書記がまとめた資料を渡し内容を伝えている | / | / | ○ | |
| 8 | 確実な申し送り、情報伝達 | a | 職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。 | ○ | 日々の情報を記録にとめ職員間で確認を行えるようにしている。 | / | / | ○ | 介護日誌の申し送り欄に必要事項を記入するようになっており、その内容がきちんと把握できるよう出勤時に介護日誌を確認し、サインしてから業務に就くようにしている。 |
| | | b | 日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等) | ○ | 情報の大小にかかわらず、日誌に書きとめ共有するよう行っている。 | ○ | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと | |
|-----------|-------------------------|-----|---|------|--|------|------|------|---|---|
| (2) 日々の支援 | | | | | | | | | | |
| 9 | 利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援 | a | 利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。 | ○ | 声かけを行い、出来る範囲で要望に沿うようにしている。 | / | / | / | ハンガーバーに並んだ衣類の中から、できるだけ利用者を選んでもらうようにしており、失語症の利用者はジェスチャーで意思表示している。言葉が出てこない利用者や意思伝達が難しい利用者については、職員が特に配慮し、利用者一人ひとりの思いを引き出せており、笑顔で会話ができるよう声かけに努めている。 | |
| | | b | 利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等) | ○ | その場、にて決定できるよう声かけを行い、急がせずタイミングを待つ。 | / | / | ○ | | |
| | | c | 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。 | ○ | できる事、したい事、声かけを行い一緒になって考え急がせず努めていく。 | / | / | / | | |
| | | d | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等) | ○ | 一人一人の体調やタイミングを考慮し支援をおこなっている。 | / | / | / | | |
| | | e | 利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。 | ○ | 言葉のふしぶしに気を配り楽しい思い出話など出来るように声かけを行う。 | / | / | / | | ○ |
| | | f | 意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。 | ○ | 声かけを行う際本人の表情、言動に気を配り、少しでも汲み取れるよう努めていく。 | / | / | / | | / |
| 10 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり | a | 職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。 | ○ | 言葉づかいに気を付け利用者のプライドを傷つけないよう注意している。 | ○ | ○ | ○ | ◎ 視覚障害のある利用者の「私の大切にしたいことメモ」に、「見えないからといって適当なこと言わないで欲しい」と書かれており、職員は常に利用者の思いを尊重し丁寧に接するよう努めている。失禁への対応には利用者の自尊心を傷つけないよう特に留意し、支援内容について急遽カンファレンスを行うこともある。居室はプライバシーに配慮しながら、利用者にとって良い環境になるようにしている。 | |
| | | b | 職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。 | ○ | 大声にて行わず人格を傷つけないよう気を配り対応している。 | / | / | / | | ◎ |
| | | c | 職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。 | ○ | 常に気を配り本人が不安にならないよう声かけと行動にきをくばる。 | / | / | / | | / |
| | | d | 職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。 | ○ | 居室に用事があり本人がいないときは声かけを行ってから入っている。 | / | / | / | | ◎ |
| | | e | 職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。 | ○ | 勉強会を行い職員同士知識を深めるよう努めている。 | / | / | / | | / |
| 11 | ともに過ごし、支え合う関係 | a | 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。 | ○ | 助け合いの気持ちを忘れず、日々努めている。 | / | / | / | 利用者同士で体調を気遣い合う姿や、他利用者を心配して職員に相談する様子が見られた。難聴の利用者には身振り手振りで伝え、視覚障害の利用者には丁寧に説明しながら、リビングに集まっている皆で会話を楽しむ様子がとても印象的であった。また、大きなトラブルにならないよう職員がさりげなく席を変えたり、間に入り仲を取り持つなどの配慮をしている。 | |
| | | b | 職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。 | ○ | 日常においてお互いの会話の中に気配りが見えたり、きづかう様子がみえるときがある。 | / | / | / | | ○ |
| | | c | 職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。 | ○ | 必要とみられた場合は、間に入り一方に肩入れせず穏やかに過ごせるよう努めている。 | / | / | / | | / |
| | | d | 利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。 | ○ | 前もって間に入り大きくなならない様話を変えたり場を変えたりしている。 | / | / | / | | / |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-------------------|-----|---|------|---|------|------|------|---|
| 12 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 | a | これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。 | ○ | 情報や職員の話し合いなど把握に努める。 | / | / | / | |
| | | b | 利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。 | ○ | 利用者の生活してきた場、人間関係など、ファイルにて共有を行っている。 | / | / | / | |
| | | c | 知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。 | ○ | 美容室に行ったり、地域の行事に参加している。 | / | / | / | |
| | | d | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | ○ | 笑顔で挨拶し、次回も来ていただけるような雰囲気作りを努めている。 | / | / | / | |
| 13 | 日常的な外出支援 | a | 利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む) | △ | 体調がよければ、近所を散歩したり、職員と一緒に買物に出かけたりしている。 | △ | × | ○ | 天気や利用者の様子を見て、事業所周辺を散歩している。多くの利用者が家族に協力してもらいながら、病院や美容院に行くために定期的に外出している。重度の利用者も体調に合わせて敷地内の花壇の花を見たり、近所を散歩したりしている。 |
| | | b | 地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。 | × | できていない。 | / | / | / | |
| | | c | 重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。 | △ | 1F駐車場でひなたぼっこをしたり、近所を車椅子で散歩したりしている。 | / | / | ○ | |
| | | d | 本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。 | △ | 家族と出かけられる。 | / | / | / | |
| 14 | 心身機能の維持、向上を図る取り組み | a | 職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。 | ○ | 介護記録と送りで情報共有し、利用者に応じたケアをしている。 | / | / | / | 介助がなくても歩行できる利用者が多く、歩行器を押しながら廊下を何往復かすることを日課にしている利用者もいる。食事は時間がかかっても最後まで自分で食べたい利用者もおり、利用者のペースで食べられるよう支援に努めている。 |
| | | b | 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。 | ○ | 嚥下機能が低下している場合は、とろみをつけたり刻み食にししたりして、利用者一人ひとりの症状に合わせて対応している。 | / | / | / | |
| | | c | 利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等) | ○ | できる所は、見守り、介助が必要な場合のみ一部お手伝いをしている。 | ○ | / | ○ | |
| 15 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | a | 利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。 | ○ | 趣味、趣向、その日の体調も踏まえて、声かけを行い参加していただいている。 | / | / | / | 広告紙で折り鶴を作ったり、ビーズを通したりなどの手先を使う作業を好む利用者や、歌うのが好きな利用者など、利用者一人ひとりの好みの楽しみ方は異なっているが、職員は利用者全員が有意義な時間を過ごせるようレクリエーションのメニューを考えるなど工夫している。 |
| | | b | 認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。 | ○ | 出来なくても楽しんで頂くことを大切に日々取り組んでいる。 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | c | 地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。 | × | できていない。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|----------------|-----|---|------|--|------|------|------|--|
| 16 | 身だしなみやおしゃれの支援 | a | 身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。 | ○ | 本人の意思を尊重して選んでいただいている。 | / | / | / | 居室にある衣類はきちんと整頓されており、すべて自分で管理している利用者もいる。自己決定しにくい利用者には職員が寄り添い支援することで、利用者全員が季節に応じた装いをしている。食事の食べこぼしは会話をしながらさりげなく拾うなど、利用者を傷つけることのないよう配慮している。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。 | ○ | ご家族様に協力を依頼し、利用者さんの愛用の品を持ってきていただいている。 | / | / | / | |
| | | c | 自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。 | ○ | 本人の気持ちに寄り添い、必要な時にはアドバイスを行うこともある。 | / | / | / | |
| | | d | 外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。 | ○ | TPOに合わせて一緒に洋服を選んでいる。 | / | / | / | |
| | | e | 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等) | ○ | 小まめに確認を行い本人や周りが、不快に思わない様声かけに気を付けている。 | ○ | ◎ | ◎ | |
| | | f | 理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | ○ | 行きつけの美容室に行っている。訪問理容を利用している方には、希望の髪形や長さを聞いている。 | / | / | / | |
| | | g | 重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。 | ○ | 櫛・ブラシを手渡し、ご自分で鏡を見て整髪することで利用者さんの笑顔を引き出すように工夫している。 | / | / | ◎ | |
| 17 | 食事を楽しむことのできる支援 | a | 職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。 | ○ | 利用者ごとの状態を把握したうえで、楽しみを持って頂くよう努めている。 | / | / | / | あらかじめ配達してもらっている米や肉類以外の食材は職員が買いに行っており、利用者も一緒に行くこともある。大根おろしなど、利用者ができることは手伝ってもらっている。旬のものを取り入れることもあり、彩り良く盛り付けるよう心がけている。食器類については、利用者が使い勝手のいいものを使い、食べやすいよう配慮している。職員は利用者に食事のメニューを伝えたり、おかずを取りやすいよう手前に置いたり、会話をしたりすることで食事を楽しめる雰囲気づくりに努めている。職員は利用者が食べ終わった後に同じものを食べているため、可能な日には利用者と一緒に食事や午後のおやつを楽しむ時間が持てるような工夫に期待したい。重度の状態でも食事の声かけの際にメニューのことを伝えるなど、雰囲気づくりに努めている。献立は前もって決めておらず、メニューが重ならないよう献立表を確認し、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう食材には注意を払い調理している。 |
| | | b | 買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。 | ○ | 料理の下ごしらえや盛り付けをしていただいたり、下膳など協力してもらっている。 | / | / | ◎ | |
| | | c | 利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。 | ○ | 出来る方には、声かけを行い調理のお手伝いしてもらい自信となっている。 | / | / | / | |
| | | d | 利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。 | ○ | 入居時、家族に聞き取りを行い職員同士で共有している。 | / | / | / | |
| | | e | 献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。 | ○ | 四季を感じて頂くようにしたり利用者に関心をおこなったりとつとめている。 | / | / | ○ | |
| | | f | 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等) | ○ | 個々において、その人にあつた方法トロミや刻み等使い分けている。 | / | / | / | |
| | | g | 茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。 | ○ | 利用者一人一人に合う大きさ、重さを用意している。 | / | / | ○ | |
| | | h | 職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。 | △ | 食事介助をサポートしたり声かけ移動しているため職員は別にとる。 | / | / | △ | |
| | | i | 重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。 | ○ | キッチンとリビングが併設しており匂いや音を楽しんでいただいている。 | ○ | / | ◎ | |
| | | j | 利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。 | ○ | 少ない場合は、声かけや品数を増やしたり努めている。 | / | / | / | |
| | | k | 食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。 | ○ | 小まめに回数、種類をかえるなどおこない取り組んでいる。 | / | / | / | |
| | | l | 職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。 | ○ | メニュー表を参考に献立が被らない様に努めている。 | / | / | ○ | |
| | | m | 食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。 | ○ | 作り置きはせず、その都度調理を行っている。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|----------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 18 | 口腔内の清潔保持 | a | 職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。 | ○ | 食後、声かけを行い自身で出来にくい場合は、介助行う。 | / | / | / | 毎食後、職員の声かけにより、利用者自身で歯磨きや義歯洗浄を行っている。職員が口腔内の状態を確認し、必要があれば介助している。痛みなどがある場合には訪問歯科を利用するなど、口腔内を清潔に保てるよう努めている。 |
| | | b | 利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。 | ○ | 日々のケアの中で状態の変化あれば対応、把握行う。 | / | / | ◎ | |
| | | c | 歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。 | ○ | 訪問歯科医からパンフレット等資料をいただき、指導を受け、職員間で共有している。 | / | / | / | |
| | | d | 義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。 | ○ | 夕食後、義歯洗浄剤にて、除菌行う。 | / | / | / | |
| | | e | 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等) | ○ | 出来る所は、自身で行っていただく。最後の確認で、職員が出血や腫れがないか確認を行う。 | / | / | ◎ | |
| | | f | 虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。 | ○ | 家族、医師、連絡を取り合い対応している。 | / | / | / | |
| 19 | 排泄の自立支援 | a | 職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。 | ○ | 常に、利用者の尊厳、プライドに気をくばり、言葉、行動、一つ一つ注意してとり行う。 | / | / | / | 布パンツや紙パンツ、パッドの使用など、利用者の状態に合わせて調整し、日中は利用者全員がトイレで排泄できるよう支援している。転倒防止のため、利用者の希望に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。自然排便できるよう、ヨーグルトや牛乳、根菜類等を積極的に食事に取り入れるなど、なるべく薬に頼らないよう支援している。 |
| | | b | 職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。 | ○ | 排泄チェックを行い、管理に努めている。 | / | / | / | |
| | | c | 本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等) | ○ | 毎日の排泄チェックに、注意し、洩れのないようつとめている。 | / | / | / | |
| | | d | 本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。 | ○ | 日々、利用者の状態を把握したうえで職員同士考え支援を行っている。 | ◎ | / | ◎ | |
| | | e | 排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。 | ○ | 医師の指示を仰いだり、職員間で情報を共有し取り組んでいる。 | / | / | / | |
| | | f | 排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。 | ○ | その日の体調、時間、しぐさに注意して、早めの声かけをおこなっている。 | / | / | / | |
| | | g | おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。 | ○ | 家族、医師の意見を聴き利用者が、出来る限り苦痛と思わない様あった方法を行う。 | / | / | / | |
| | | h | 利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。 | ○ | 体調の変化状態に合わせて行っている。 | / | / | / | |
| | | i | 飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み) | ○ | 簡単なレクリエーション、水分補給では、種類を増やしたり工夫している。 | / | / | / | |
| 20 | 入浴を楽しむことができる支援 | a | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。 | ○ | 時間をずらしたり、曜日を変えたりと随時利用者に出る限り入浴して頂くようつとめている。 | ◎ | / | ○ | 事業所の別フロアに機械浴があるが、現在は使用しておらず、利用者は一般浴槽で入浴している。午前中から順番に、1日に3名ずつ、1週間に3回程度入浴できるよう調整している。入浴を嫌がる利用者もいるが、日や時間帯を変えて声かけを行うなど工夫し入浴することができている。 |
| | | b | 一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。 | ○ | 安全を確認しつつ、温度、時間、距離を考えながら行っている。 | / | / | / | |
| | | c | 本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。 | ○ | できる所は、お願ひし、それ以外は、お手伝いさせていただいている。 | / | / | / | |
| | | d | 入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。 | ○ | 職員で話し、スムーズに入浴できる様話し合ったりお風呂の当番を代わってみたりと工夫している。 | / | / | / | |
| | | e | 入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。 | ○ | バイタル等で確認職員同士話し合ったうえで入浴を行い入浴後も顔色、状態の変化がないかこまめに確認し合う。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|----------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 21 | 安眠や休息の支援 | a | 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。 | ○ | 日誌、職員同士の情報共有にて把握している。 | / | / | / | 日中に起床している時間を増やすよう努めることで大体の利用者が良く眠ることができている。毎晩就寝前に処方薬を飲んでいる利用者もあり、医師と連携を取りながら総合的な支援を行っている。寝つきの悪い日には、眠くなるまでリビングで過ごしてもらうなど、利用者のペースで休めるよう努めており、安易に薬剤に頼らない支援に取り組んでいる。 |
| | | b | 夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。 | ○ | 体を動かしたり午睡時間を調整して利用者が夜間休める様努めている。 | / | / | / | |
| | | c | 睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。 | ○ | 職員同士話し合い、医師の指示に基づいて支援を行っている。 | / | / | / | |
| | | d | 休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。 | ○ | 表情を見て声かけを行い長い時間ではなく、休息を取ってもらっている。 | / | / | / | |
| 22 | 電話や手紙の支援 | a | 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | ○ | 利用者から要望があれば、希望に沿っている。 | / | / | / | |
| | | b | 本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。 | ○ | ご自分でできない方には、職員が手助けをしている。 | / | / | / | |
| | | c | 気兼ねなく電話できるよう配慮している。 | ○ | 要望があれば対応している。 | / | / | / | |
| | | d | 届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。 | ○ | ご本人さんに渡している。 | / | / | / | |
| | | e | 本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。 | △ | 本人の訴えにての場合事情を説明したうえでご家族様にお願いしている。 | / | / | / | |
| 23 | お金の所持や使うことの支援 | a | 職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。 | △ | 自己での管理が出来ない方が多くホームでは、立替にておこなう。 | / | / | / | |
| | | b | 必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。 | × | 買い物はご家族様にお願いしている。 | / | / | / | |
| | | c | 利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。 | × | ご家族様、職員が対応している。 | / | / | / | |
| | | d | 「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | △ | ホームでの立替を基本としている。 | / | / | / | |
| | | e | お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。 | ◎ | 立替での使いかたについては、家族と話し合う。 | / | / | / | |
| | | f | 利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。 | ○ | ホームでの立替を行っているため利用者は、管理せず。 | / | / | / | |
| 24 | 多様なニーズに応える取り組み | | 本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | ○ | 随時、ニーズに対し行えているかこまめに話し合い利用者にあった良い物があれば家族と相談のうえ取り組んでいる。 | ◎ | / | ◎ | 職員の付き添いで久しぶりに馴染みの美容室に行くことができた利用者は、「髪型が崩れるのが惜しいから眠りたくない」と言われる程に喜んでいた。入院中の妻の様子が気になる男性利用者には、電話で妻と話せるよう調整するなど、利用者の要望に応じた支援に努めている。 |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|------------|-------------------|-----|--|------|--|------|------|------|--|
| (3)生活環境づくり | | | | | | | | | |
| 25 | 気軽に入れる玄関まわり等の配慮 | | 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | ○ | 気軽に入れる様季節の花を飾りこまめに掃除をおこなう。 | ◎ | ◎ | ○ | 玄関等には季節の飾り物をしたり、清掃を毎日こまめに行い清潔感が感じられるなど、来訪者が気持ちよく入れるよう配慮している。 |
| 26 | 居心地の良い共用空間づくり | a | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。) | ○ | 派手な飾りに注意し季節の花を飾るなど安心して過ごす空間を務めている。 | ◎ | ○ | ○ | 廊下やリビングなどの共用空間も掃除が行き届き整頓されている。アルコールでの消毒や消毒消臭剤スプレーを使用するなど、衛生的な空間になるよう努めている。掃除は主に職員がしているが、汚物処理に使う新聞を畳んだり、台拭きをしたりと可能な範囲で利用者にも手伝ってもらっている。廊下の壁には、季節が感じられるものや利用者と一緒に作ったちぎり絵を飾っている。 |
| | | b | 利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。 | ○ | 大きな音、テレビ、ラジオ、気を付け掃除もアルコールを使いこまめに行っている。 | / | / | / | |
| | | c | 心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | ○ | 四季を感じていただくため声かけの時季節の会話を取り入れたり草花にて、五感を感じて頂いている。 | / | / | / | |
| | | d | 気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。 | ○ | 声かけを行い近くに移動して頂いたり見守りを増やしたうえで車椅子よりソファーに移り場を変えたり行っている。 | / | / | / | |
| | | e | トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。 | ○ | カーテンやドアを使い分け行う。 | / | / | / | |
| 27 | 居心地良く過ごせる居室の配慮 | | 本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ○ | 前もって聞き取りを行い安全を確認したうえで使い慣れたものがあればつかって頂いている。 | ○ | / | ◎ | 居室の入口には部屋番号と氏名がかけられ、利用者が居室を間違えないよう配慮されている。自宅からベッドを持ち込んでいる利用者も多く、カーテンも自分のものを使っている。テレビや冷蔵庫を置いている利用者もあり、自宅に近い雰囲気の空間になっている。 |
| 28 | 一人ひとりの力が活かせる環境づくり | a | 建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。 | ○ | 危険のない限り見守りにて対応し、本人が出来ることを尊重し生活できる様努めている。 | / | / | ○ | 職員は、利用者毎に「できること」をきちんと把握し、極力取り組んでもらうなど、自立した生活が送れるよう支援している。利用者全員と一緒に過ごしている時にも、個別に対応し配慮している様子を窺うことができた。 |
| | | b | 不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。 | ○ | 職員同士で情報を共有し、記録にも残すことで今後の対応に役立てている。 | / | / | / | |
| | | c | 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等) | ○ | 簡単な裁縫、新聞、雑誌などをおき、裁縫など刃物が付いてあるものは、職員が見守り寄り添う。 | / | / | / | |
| 29 | 鍵をかけないケアの取り組み | a | 代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等) | ○ | 利用者の安全を考え家族と相談し理解して頂いている、職員は、常に鍵の確認を行い弊害について話し合っている。 | ◎ | ◎ | △ | 以前は鍵をかけていない時期もあったが、ユニットの出入口はリビングにいる職員からは死角になり、利用者の階段転落の危険性もあるため、安全確保を優先し施錠している。今後は職員が常に利用者の安全が確保できるよう見守りながら、自由に玄関から出入りできるような支援にも取り組んで欲しい。 |
| | | b | 鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。 | ○ | 入所時、ご家族様と話し合い、理解いただいている。 | / | / | / | |
| | | c | 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。 | × | 利用者が一人で外へ出ると危険が伴うため、施錠を行っている。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|------------------|------------------|-----|---|------|--|------|------|------|----------------------------|
| (4) 健康を維持するための支援 | | | | | | | | | |
| 30 | 日々の健康状態や病状の把握 | a | 職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。 | ○ | ファイル、資料等にて、確認、把握を行っている。 | | | | |
| | | b | 職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。 | ○ | 日々の生活の中表情、言動、少しの変化、そのつど記録に、とどめている。 | | | | |
| | | c | 気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。 | ○ | 状態の変化が見られれば医師の指示を仰ぎ受診を行っている。 | | | | |
| 31 | かかりつけ医等の受診支援 | a | 利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。 | ○ | 敷地内にある、併設の病院、もしくは、専門医を受診できる様支援おこなっている。 | ◎ | | | |
| | | b | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | △ | 本人、家族の希望も考え、医師と相談して病院の変更などおこなってもらっている。 | | | | |
| | | c | 通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。 | ○ | 医師や看護師、相談のもと、電話や面談にて話し合っている。 | | | | |
| 32 | 入退院時の医療機関との連携、協働 | a | 入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。 | ○ | 必要な情報をまとめ、資料提供している。 | | | | |
| | | b | 安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 | ○ | 現在の状況、看護師、家族と連絡をとりあう。 | | | | |
| | | c | 利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。 | ○ | 医師、看護師、相談員等こまめに連絡をとり合う。 | | | | |
| 33 | 看護職との連携、協働 | a | 介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。 | ○ | 日常において変化や気づいたことがあれば、敷地内併設の病院、看護師に相談をおこなっている。 | | | | |
| | | b | 看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。 | ○ | 夜間に関しては急変あれば、指定の医師に連絡指示を従っている。 | | | | |
| | | c | 利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。 | ○ | 体調に変化ある場合は、指定の医師、看護師指示のもと対応している。 | | | | |
| 34 | 服薬支援 | a | 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。 | ○ | 病院よりの説明と処方箋の説明を把握し職員間での情報の共有に努めている。 | | | | |
| | | b | 利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。 | ○ | 一つ一つ確認の動作を行っている飲んだ後は口腔内の確認をし、とりのこしがないか確認おこなっている。 | | | | |
| | | c | 服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。 | ○ | 日々状態の確認を行い変化が見られないようなら医師の指示を仰ぐ。 | | | | |
| | | d | 漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。 | ○ | その都度状態をつたえ、こまめに記録にのこしている。 | | | | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-------------|-----|--|------|---|------|------|------|--|
| 35 | 重度化や終末期への支援 | a | 重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。 | ○ | 状態の変化に合わせて、その都度家族、医師、と話し合いを行い進めていく。 | / | / | / | 事業所での看取りも多く、看取りの経験がある職員も多い。現在は対象となる利用者はいないが、家族を交え主治医や職員、利用者等と終末期のあり方について話し合い情報を共有している。 |
| | | b | 重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。 | ○ | 家族、医師はもちろん、職員間での情報の漏れがないよう努めていく。 | ○ | / | ○ | |
| | | c | 管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。 | ○ | その都度ごとに、現状を把握し、どのように対応できるかを考え職員同士話し合う。 | / | / | / | |
| | | d | 本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。 | ○ | 意見、要望を聞いたうえで医師や看護師と相談の上説明を行い理解していただくよう努める。 | / | / | / | |
| | | e | 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | ○ | 本人がより良い生活が最後までできる様医療、介護のもと相談し備えていく。 | / | / | / | |
| | | f | 家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等) | ○ | ホームに来て頂いているときは、家族だけで過ごせるようにしたり、話がある時は、時間の限り聞くようにしている。 | / | / | / | |
| 36 | 感染症予防と対応 | a | 職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。 | ○ | 資料など、小まめに確認、記録をおこなっている。 | / | / | / | |
| | | b | 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。 | ○ | マニュアルにて確認、また、一つ一つの動作のあとにはかならず手洗いをこころがけている。 | / | / | / | |
| | | c | 保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。 | ○ | 日頃よりこまめに情報の確認を行い、そのつど対応をとっている。 | / | / | / | |
| | | d | 地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。 | ○ | 地域の情報を集め、職員間で情報の共有に努めている。 | / | / | / | |
| | | e | 職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。 | ○ | 必ず出入りのさいは、手洗いをし、来訪者にも入口に、手洗い消毒のはりがみをし、対応行っている。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|---------------------|----------------------------|-----|---|------|---|------|------|------|---|
| II. 家族との支え合い | | | | | | | | | |
| 37 | 本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援 | a | 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | ○ | 本人の気持ちになって考え、ホームでの生活において自身も必要と思って頂く、よう努めていく。 | / | / | / | 利用者の食事時間に同席してもらったり、美容室等外出時に同行してもらったり、来訪してもらう機会をつくるようにしている。来訪する機会の少ない家族にも利用者の様子を知ってもらえるよう、2か月ごとにホーム便りを家族に郵送し、事業所の運営上のことや職員のことなどについて報告している。家族が相談しやすいよう意見箱を設置しているが、あまり活用されていないため、今後は家族が要望を伝えやすいような工夫を検討している。職員は家族の面会時に気軽に話せるよう声かけするなど、雰囲気づくりにも努めている。 |
| | | b | 家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等) | ○ | 面会時間中に職員から話しかけ、気兼ねなく聞いて頂ける様雰囲気作りにつとめている。 | / | / | / | |
| | | c | 家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等) | ○ | 外出以外は、職員が対応する。 | x | / | ○ | |
| | | d | 来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等) | ○ | 体調の変化等も含め、電話も利用してお伝えしている。また、2ヶ月に一度、写真付きのお便りを送っている。 | ○ | / | ◎ | |
| | | e | 事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。 | ○ | ホームに来られた時、聞き取りを行い、何かあれば、随時、対応行う。 | / | / | / | |
| | | f | これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等) | ○ | 本人が思っていることがあり言いにくい場合、代わりに伝えたりしている。 | / | / | / | |
| | | g | 事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等) | ○ | 申送り、カレンダーに予定を記入し、職員間で共有している。ご家族様には、ホーム来られた際お伝えしている。 | x | / | ○ | |
| | | h | 家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ) | △ | 行事等は職員が行い、ご家族様へも働きかけを行っている。 | / | / | / | |
| | | i | 利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | ○ | 入居時話し合い、日々の中で状況の変化があればその都度、話し合っている。 | / | / | / | |
| | | j | 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。 | ○ | 疑問や意見があればすぐに対応を取り、家族の心配が和らぐよう努めている。 | / | / | ○ | |
| 38 | 契約に関する説明と納得 | a | 契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。 | ◎ | その都度、管理者が十分な説明を行い、理解、納得を得ている。 | / | / | / | |
| | | b | 退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。 | ◎ | 退居の過程については、カンファレンスでの話し合いや利用者・家族への説明をその都度行い、記録に残している。退居先へも情報提供し、安心して移れるよう支援している。 | / | / | / | |
| | | c | 契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等) | ○ | 契約時、料金の内訳を文書で示している。料金改定時は、料金の改定理由を文書で説明している。同意については、同意書までは作成していない。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------------------|---|-----|---|------|--|------|------|------|--|
| Ⅲ.地域との支え合い | | | | | | | | | |
| 39 | 地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア | a | 地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。 | △ | 設立段階では説明の機会を作っていない。 設立後、地域の人に理解を得よう努力している。 | / | △ | / | 地域から案内をもらっている敬老会などには、利用者と一緒に積極的に参加している。地域の文化祭に参加し利用者が住んでいた馴染みの人に会うなど、関係者とのつきあいを深め、地域とのつながりは強固である。 |
| | | b | 事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等) | ◎ | 日常的に挨拶している。 地域の行事へは積極的に参加している。 中学生の職場体験も受け入れている。 | / | × | ○ | |
| | | c | 利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。 | △ | 定期的にボランティアの方が支援してくれる。 増えてはいない。 | / | / | / | |
| | | d | 地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。 | ◎ | 利用者に面会する為に、気軽に立ち寄りしてくれる。 | / | / | / | |
| | | e | 隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。 | △ | 隣近所の人と気軽な会話はあるが、気軽に立ち寄ってもらうことはない。 | / | / | / | |
| | | f | 近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援) | △ | 傾聴ボランティア等の日常的な活動の支援がある。 | / | / | / | |
| | | g | 利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | △ | 利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源の把握が充分できていない。 | / | / | / | |
| | | h | 地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。 | △ | 理美容店・福祉施設・交番・消防・文化教育施設等には、関係を深める取組を行っている。 | / | / | / | |
| 40 | 運営推進会議を活かした取組み | a | 運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。 | △ | 家族の参加は現在いただけていないが、今後声を続ける。 地域の方には参加いただいている。 | × | / | △ | 利用者や地域の方は参加しているが、毎回家族の参加が少ないことが課題となっており、今後は議題や案内方法などを工夫するなど、家族の参加が増えるような取組みに期待したい。前回の運営推進会議では、災害に関して意見交換をしており、事業所からは備蓄について報告している。また、自己評価や外部評価の内容や目標達成計画も公表している。運営推進会議で出た意見は、職員間で共有しサービスの向上につなげている。 |
| | | b | 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。 | ○ | 評価への取組状況は、評価日直後の運営推進会議で報告している。 | / | / | ◎ | |
| | | c | 運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。 | △ | 会議で出された意見はできる限り活かすようにしている。 その状況や結果等については、報告していない。 | / | ◎ | ○ | |
| | | d | テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。 | △ | 日程については要望があったので、次回は要望に応じる予定である。 | / | / | ○ | |
| | | e | 運営推進会議の議事録を公表している。 | ◎ | リビングに置き、公表している。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|---------------------|---|-----|---|------|--|------|------|------|---|
| IV.より良い支援を行うための運営体制 | | | | | | | | | |
| 41 | 理念の共有と実践 | a | 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。 | ○ | 事業所理念をリビングに掲示している。カンファレンス時や社内研修時に、日々の実践が理念に基づいたものかどうか振り返っている。 | / | / | / | |
| | | b | 利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。 | ○ | 理念を掲示し、見ていただいている。 | △ | ◎ | / | |
| 42 | 職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。 | a | 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。 | ○ | 年間計画を作成し、研修を受けられるよう取り組んでいる。 | / | / | / | 代表者は人間関係や職員の能力に配慮しており、無資格や未経験で入職した職員も徐々に仕事に慣れ、モチベーションが上がってきている様子が窺える。職員のスキルアップのため資格取得や研修受講などにも積極的であり、職員は働きがいのある職場であると感している。 |
| | | b | 管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。 | △ | OJTの計画は立てているが、日常業務で突発的なことが起こるなどして、実行は遅れ気味である。 | / | / | / | |
| | | c | 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | ○ | 代表者は、給与水準や労働時間の向上に努めている。認知症介護研修や資格取得を目標とし、それらの努力が評価に反映されるしきみがある。 | / | / | / | |
| | | d | 代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加) | △ | グループホーム協会に加入しており、研修案内があれば参加するようにしている。相互研修はしていない。 | / | / | / | |
| | | e | 代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | ○ | 人間関係に配慮して、勤務を組んでいる。 | ○ | ○ | ◎ | |
| 43 | 虐待防止の徹底 | a | 代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。 | ○ | 社内研修で繰り返し学んでいる。カンファレンス時にも、虐待や不適切なケアについて話合っている。 | / | / | / | 職員は虐待防止に関する研修を定期的受講し、カンファレンスでも虐待や不適切なケアについて話し合っており、虐待に対して注意を払い、見つけた場合はマニュアルに基づき対応するよう共有している。 |
| | | b | 管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。 | ◎ | 年度末に1年を振り返り、よかったこと、反省点、改善点を話し合っている。 | / | / | / | |
| | | c | 代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。 | ◎ | 虐待について注意を払っている。発見した場合は、マニュアルに基づいて対応する。 | / | / | ○ | |
| | | d | 代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。 | ◎ | 日常的に注意を払い、点検している。 | / | / | / | |
| 44 | 身体拘束をしないケアの取り組み | a | 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。 | ○ | 職員全体にて身体拘束の話し合い資料等の確認をおこなっている。 | / | / | / | |
| | | b | どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。 | ◎ | 拘束は行っておらず、資料や勉強会により話しあっている。 | / | / | / | |
| | | c | 家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。 | ○ | 入居前に家族と話し合っているホームでは拘束は行っていない。 | / | / | / | |

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|-----------------------|-----|--|------|--|------|------|------|---|
| 45 | 権利擁護に関する制度の活用 | a | 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。 | ◎ | 社内研修で繰り返し学んでいる。 | | | | |
| | | b | 利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。 | ○ | 相談があれば、管理者やケアマネから説明する。 | | | | |
| | | c | 支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。 | △ | 地域包括支援センター、社会福祉協議会とは連携できている。相談があればいつでも支援できる体制にある。 | | | | |
| 46 | 急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み | a | 怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。 | ○ | マニュアルに沿って行動できる様職員同士確認しながら努めている。 | | | | |
| | | b | 全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | △ | マニュアル、や資料等にて勉強している。 | | | | |
| | | c | 事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。 | ○ | その都度なにかあればヒヤリハットにまとめ職員同士もれないよう徹底している。 | | | | |
| | | d | 利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。 | ○ | 日頃より予測、検討を行い未然に防げるよう努めている。 | | | | |
| 47 | 苦情への迅速な対応と改善の取り組み | a | 苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。 | ○ | マニュアルのもと職員間で話し合い日々改善にむけて取り組んでいる。 | | | | |
| | | b | 利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。 | ○ | 意見や苦情は速やかに対応している。 | | | | |
| | | c | 苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。 | ○ | 家族が納得できる様話し合いを行えるよう何度も検討している。 | | | | |
| 48 | 運営に関する意見の反映 | a | 利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等) | △ | 介護相談員さんに関わってもらっている。また、職員が利用者との関わりの中で、個別に聞いている。 | | | ○ | 定期的に事業所を訪問している地域の介護相談員に、利用者の要望などを聞いてもらっている。家族からの意見は職員に直接言ってもらっている。さらに意見箱等をPRし、より家族が要望を言いやすいよう検討している。管理者は日頃から職員の意見を聞くよう努めており、気になることがあればすぐに職員会議等話し合いの場を持つようにしている。 |
| | | b | 家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等) | ○ | 意見箱を設置している。また、普段から意見や要望が言いやすい関係作りに努めている。ケアプラン更新時に、意見や要望を聞いている。 | ○ | | ○ | |
| | | c | 契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。 | ○ | 公的な窓口の情報を、リビングに掲示している。 | | | | |
| | | d | 代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。 | ○ | 不定期ではあるが、職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。 | | | | |
| | | e | 管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。 | ○ | 職員一人ひとりの意見や提案等は、その都度聞いている。 | | | ◎ | |

愛媛県グループホーム浜っ子

| 項目No. | 評価項目 | 小項目 | 内容 | 自己評価 | 判断した理由・根拠 | 家族評価 | 地域評価 | 外部評価 | 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと |
|-------|---------------|-----|---|------|--------------------------------------|------|------|------|--|
| 49 | サービス評価の取り組み | a | 代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。 | ◎ | 年1回、全員で自己評価に取り組んでいる。 | / | / | / | それぞれのユニット毎に、ユニットリーダーが中心となって自己評価を行い、運営推進会議で毎回サービス評価の取り組みの報告をしている。今回、外部評価におけるアンケートの回収率が高く、家族や地域の人の事業所運営への関心の高さが窺え、今後はモニター等をしてもらうなどの取り組みに期待したい。 |
| | | b | 評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。 | ◎ | 職員全員が自己評価に取り組む過程が、意識統一や学習の機会となっている。 | / | / | / | |
| | | c | 評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。 | ◎ | 目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。 | / | / | / | |
| | | d | 評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。 | × | モニターはしてもらっていない。 | × | △ | △ | |
| | | e | 事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。 | △ | 職員間での確認のみである。 | / | / | / | |
| 50 | 災害への備え | a | 様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等) | ○ | ホームではマニュアルを作成し職員間にて、確認、訓練の向上に努めている。 | / | / | / | 避難訓練などを実施しているが、事業所単体でのものである。今後は地域の訓練への事業所からの参加などを検討し、地域との合同の避難訓練等にも取り組むことが望まれる。 |
| | | b | 作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。 | ○ | 日中、深夜問わず、利用者が避難できる様作成している。 | / | / | / | |
| | | d | 消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。 | ○ | 非常食や備品等急に対応できる様ひごより場所確認をその都度おこなっている。 | / | / | / | |
| | | e | 地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。 | ○ | 年2回訓練を消防署の立会にて行い、それ以外にも自主訓練を行っている。 | × | ○ | △ | |
| | | f | 災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等) | ○ | 地域の防災訓練に参加している。 | / | / | / | |
| 51 | 地域のケア拠点としての機能 | a | 事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等) | △ | 依頼があれば応じるが、積極的な発信はしていない。 | / | / | / | 地域からの相談ニーズが増えるよう事業所のPRなどにも努め、積極的に相談にも対応することが望まれる。傾聴ボランティアや中学生の職場体験の受け入れを行っているが不十分なので、町や地域包括支援センター等とも連携し、地域イベント等開催などの取り組みに期待したい。 |
| | | b | 地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。 | × | 相談があれば応じている。 | / | × | △ | |
| | | c | 地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等) | △ | 地方祭の時は、みこしの休憩場所として開放している。 | / | / | / | |
| | | d | 介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。 | ○ | 毎年中学校の体験学習にきて頂いている。 | / | / | / | |
| | | e | 市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等) | ○ | 町や地域包括支援センター主催のイベントには参加している。 | / | / | △ | |